

## 今週の主な News

1. 「信州・松本フォーラム」報告
2. 新役員就任コメント 副会長 坂井 猛  
常務理事 牧 淳司

### ■JSIURP 地域デザイン研究会「信州・松本フォーラム」報告

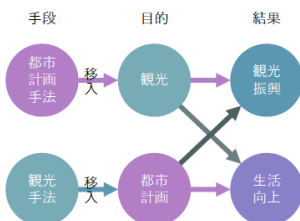
12月9日(土)、10日(日)の二日間、長野県松本市でJSURP 地域デザイン研究会主催の「信州・松本フォーラム2022」が開催されました。

9日午後は松本城近くのギャラリーノイエにて「アフターコロナの観光をデザインする」と題したセッションと懇親交流会、参加者は50人弱でした。10日午前、松本市の中心市街地を巡る二つの街歩きツアー、寒い雨となりましたが各々10人強が参加者しました。

9日のセッションは、研究会代表幹事の石川岳男さんの開会挨拶、主旨説明ののち、研究会幹事の小林真幸さんの司会進行で講演・プレゼンが始まりました。

まず、立教大学観光学部の西川准教授より、「我が国の観光振興の到達点とこれから」と題する基調講演が行われました。講演は①観光振興の現在までの到達点はどこにあるか？、②なぜ今観光とまちづくり/都市計画の融合か？、③観光とまちづくりの融合に向けて、をテーマに進められ、「観光」と「まちづくり」の相違を指摘しつつ、今こそ両者の融合が必要であるとしてその視点を提示されました。

#### ◆観光と都市計画・まちづくりの融合に向けて必要な視点



1. 地域の文脈やストーリーの観光資源化
2. [観光空間における]公共空間の充実
3. 観光空間の質的向上を図る
4. 負の影響を抑制する手法の検討
5. 地域住民のためのレクリエーションの場の構築

次に、地元で長く景観まちづくりに携わられている松本大学総合経営学部の益山代利子教授から、「松本の景観まちづくりと観光」と題して、①松本市基本構想2030「三ガク都市のシンカ」と松本ブランド、②松本市景観計画に見る松本のこだわり、③人とまちをつなげる滞在型観光に向けて、について講演が行われ、松本平における自転車を活用した滞在型観光の提案などがなされました。

### 人とまちをつなげる滞在型観光に向けて

- 自転車活用先進都市の実現
- シェアサイクル事業
- 自転車通行空間整備事業
- 駐車場整備事業



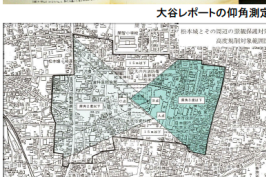
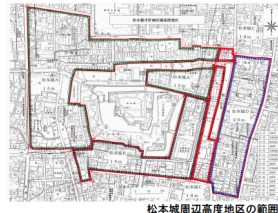
松本市役所の館さんから「松本市の観光について」として、コロナ前年間約500万人の入込み客数がコロナ禍により半

減、外国人宿泊者数に至っては9割減となっていること、国宝松本城を核とする街なか観光と、美ヶ原や上高地、安曇野・北アルプスに代表される自然・山岳観光の両者を併せ持つ稀有な都市であり、こうした立地・リソースを活かした観光政策の展開を進めていることなどが紹介されました。

地元の都市計画家である倉澤聡さんによる「最近の松本のまちづくり事例」、地元の魅力を伝えるココブラ信州ディレクター高松伸幸さんによる「ココブラ 案内人の役割と存在価値」のプレゼンが行われました。最後は地域デザイン研究会メンバーの都市環境研究所大野整さんによる「青森県黒石市観光×まちづくり」が紹介されました。

倉澤さんは松本市出身、東大都市工学科西村研の出身で長く地元で都市計画/まちづくりに携わってきた第1人者でもあり、松本における都市計画/まちづくりの歴史、具体的なまちづくりや市民参加の事例、中心市街地の課題などについて詳細な報告がされました。

S47マンション建設  
S48東大谷研究室により通称・大谷レポート作成  
山並み眺望確保のための条例でのコントロールへ  
2001年松本城周辺高度地区運用開始



セッション後の交流懇親会では地元の関係者(民間の方々、学識者、行政)とJSURP参加者等との素直な意見交換が行われました。

10日は松本市街を巡るエクスカーション、約二十人が参加して二つのコースに分かれて約2時間の行程で街歩きツアーが行われました。東コースは大手門から松本城を通り、埋め立てられたお堀端や町人街を巡るコース。倉澤さんの豊富な解説によって、まちの変遷や歴史の痕跡を楽しむことができました。西コースは街なかのマニアックなスポット(例えば活断層)に焦点を当てたツアーとなりました。



昨年8月に研究会規程が改定され、外部団体との連携・協働などによる開かれた研究会活動の活性化とその資金的支援が定められ、今回はその第1弾に位置付けられるものです。今後、他の研究会においても同様の活動が展開されることが期待されます。

## ■新たな役員の就任

JSURP の 2022/2023 年度の新副会長に就任された坂井猛さん、新常務理事に就任された牧淳司さんのご紹介です。お二人とも福岡在住で JSURP 福岡支部の支部長・事務局長として活動を先導されています。

## ■副会長就任コメント 坂井猛

**略歴など:**1962 年生まれ。九州大学本部キャンパス計画室教授・副室長/大学院人間環境学府教授/工学部建築学科教授。都市計画、都市景観、キャンパス計画、公共空間計画



**JSURP での活動履歴など:**全国ま

ちづくり会議 in 熊本でフォーラムを 1 つ担当したのが最初でしたが、2016 年に理事・福岡支部長として関わるようになりました。2018 年には、全国まちづくり会議 in Fukuoka の実行委員長を拝命し、本部理事会の皆様や牧敦司事務局長他の福岡支部の皆様のご支援を得て、なんとか務めることができました。さらに、2020 年からは、地域活動部会長として近藤洋介副部会長、海野芳幸幹事、木村静幹事他の皆様とともに活動を続けています。

**JSURP への思いと副会長としての抱負・意向など:**持続可能な都市の発展、とりわけ、(1)持続して質の高い生活を提供できる都市づくり(次世代まで持続して質の高い生活を提供できる都市の構築)、(2)復興力を備えた強靱な都市づくり(安全・安心で自然災害に強く、復興力を備えた強靱な都市の構築)、(3)発展の具体的なシナリオを持つ都市づくり(地域の活性化に繋ぐ発展の具体的なシナリオを持つ都市の構築)に関心を持っています。これまで、糸島半島をフィールドにしたキャンパスと学術研究都市づくりを主にして、大学等の研究教育機能との連携を軸にした地域の振興に取り組んできました。あわせて、UDCQ、UDCIC、FDC 福岡地域戦略推進協議会、九州 PPP センター、We Love 天神、博多まちづくり協議会、自治体の都市計画審議会等の役を兼務し、支援を続けています。また、糸島市研究助成で始めた糸島空き家プロジェクトを大学の公認サークル活動に昇格させることができました。現在は同プロジェクト顧問として、プロジェクトの全体枠組みや進行についてアドバイスをしています。大学では、坂井研とプラサンナ研で 15 名のゼミを主催し、単位としての建築から都市に至る様々なスケールの空間を対象として、計画と空間デザイン、都市景観の評価手法の開発等を行っています。2022 年 11 月の J' s café Fukuoka 開催時に紹介しましたが、九州大学フジイギャラリーで 2023 年 2 月 22 日まで「きみだけのニッチをさがせ!!」展示を行い、地域における第三の空間としてのニッチ探しを仕掛けています。地域

の現場における諸課題の解決を支援することは、この非営利法人 JSURP の活動そのものであり、自分の活動の多くが重なっています。より多くの人々の理解を得て、やりがいのある事業をさらに進めることが求められていると思っています。

## ■常務理事就任コメント 牧 敦司

**略歴など:**1952 年福岡県北九州市に生まれる。株式会社醇建築まちづくり研究所代表/1987 年以来、九州福岡の建築まちづくり全般にわたるコンサルタント業務に携わる。



**JSURP での活動履歴など:**全国

まちづくり会議 in 常盤小学校(確か第二回だったと思います)に参加し、全国の草の根まちづくりに参加されている方々の熱量に感動、JSURP の活動に共鳴し、入会。現在に至っています。

九州福岡に JSURP の活動が根付く迄との思いで、長く会員を続けています。これまで、福岡県津屋崎三軒の町並み保存、北九州市丸山大谷地区のまちづくり、をはじめ九州福岡での市民参加のまちづくりを全国に紹介してきました。現在は、一昨年全国まちづくり大賞を頂いた、北九州市高見地区の景観まちづくりをさらに 10 年 20 年継続する事を目標に活動を続けています。

**JSURP への思いと常務理事としての抱負・意向など:**持続可能な都市の発展が求められる中、福岡支部長でもある坂井副会長と共に、九州福岡での草の根まちづくりを発掘し、JSURP の活動として支援したいと考えています。九州福岡での景観、地域振興・活性化、再開発、防災、など幅広い活動の経験を紹介しつつ、全国の活動との交流で、地方の活動も充実した活動になるように橋渡しができればと思います。常務理事をお引き受けしました。まちづくりの分野は幅広く、奥深く、参加者の関心も多種多様だと思います。まちづくりに参加する人達の一瞬一瞬の喜びや気付きが、少しでも多くの人と分かち合う事ができるような機会づくりを支援し、持続性の高い活動になるような伴走支援に特に力を入れた活動を目指したいと思います。

## ■今後の主な予定

12 月 21 日(水) 第 207 理事会  
1 月 17 日(火) 広報交流部会  
1 月 18 日(水) 第 208 理事会

## ■事務局からのお知らせ

年末年始の協会事務局は、オフィスのある「axle 御茶の水」の開閉館と連動し、12 月 27 日～1 月 5 日の間を休業します。